

最終レポート（2015年10月）

カリオペ・シンバ・アキンティジェ（ルワンダ）
（原文は英語）

はじめに

岡山県がAMD Aを通じて私に提供してくださった研修は、私にとって初めての体験であり、また、特に日本語研修は初めて経験する学習方法でした。AMD Aは、永遠瑠（トワリ）・マリー・ルイズ女史により創立された「NPO法人ルワンダの教育を考える会」とパートナーシップ協定を締結しています。

2015年8月17日から10月19日まで岡山県で体験した研修は、長いようで短い期間の人生経験になりました。マリー・ルイズ女史のリーダーシップと意欲のもとで運営されているウムチョ・ムーザ学園が、私の今回の岡山及び日本で得た経験を通して、多くの恩恵を受けることを期待しています。

目的

私が岡山に来るために明確に抱いていた目標は、下記のとおりでした。

- ・日本の小学校の健康診断の実施システムを理解する
- ・母子健康手帳について知識を増やす
- ・日本の社会生活に親しみ、ライフスタイルについて深く理解する

専門技術研修を始める前に、私は日本語研修を受講することが義務付けられ、8月17日から9月11日まで、岡山県国際交流協会（OPIEF）で日本語を学びました。この授業は、有能で経験豊富な講師陣によって行われました。

この日本語の集中レッスンは、私にとって厳しいものでした。なぜなら、特に、あいさつをしたり、食品を求めたり、行き方を尋ねたりする言い方を短時間に習得しなければならなかったからです。

さらに、マンツーマンの授業だったため、先生の質問や宿題から逃れることはできませんでした。

岡山県国際交流協会の良い思い出

- ・協会局長と職員の皆さんによる温かい歓迎は心に残りました。私のように日本に来て長く滞在するアフリカ人に会って、だれもが楽しそうにしてくれました。
- ・日本語の先生方の指導技術とご親切は印象に残っています。特に、ある日、岡山日本語センターの浦上先生が週末の後楽園に誘ってくださったので、他の先生方とも一緒に楽しく過ごすことができましたし、日本で生活をしているというタンザニアの男性に会うことができました。

- ・先生方は、いつも私を励まして授業を続けてくれました。私にとって、日本語で表現することはとても難しく、意味を理解することができませんでした。私の脳は、私にとって外国語である日本語と戦うことを拒んでいました。
- ・日本文化に慣れ親しむことはさほど問題ではありませんでした。日本食は大丈夫でしたし、箸を使うこともできました。
- ・日本の人々がとても親切なことにも感銘を受けました。日本での厳格な生活が大丈夫かどうかいつも気にかけてくれました。皆さんに心から感謝します。神様が皆さんを永遠にお守りくださいますように。
- ・10月3日に私が行った講演会と参加者の様子を見て、OPIEFがよく準備をしてくれたことがわかりました。野本さんをはじめとするスタッフのおかげで、私は岡山県の人々と意見交換することができ、感想文もいただきました。ルワンダのことをもっと知っていただくために、また日本に来たいと思います。

課題

- ・最初は、家族と離れて暮らすことが難しかったです。最初の一週間はホームシックになりました。しかし私がくつろいで岡山での生活を楽しめるよう、助けてくれる友人ができました。
- ・日本のシステムは私にはとても複雑に映りました。レストランでの食事さえ規律が守られ、食事の後の食器を自分で返却しなければならなかったりするので、私の国とはずいぶん違っていました。日本のゴミの分別収集と清潔さは、私にはやりにくいものでした。なぜなら、何か飲み物を飲むたびに、空き瓶を適当に投げ捨てることができなかったからです。
- ・日本の時間厳守のやり方に、私は何よりもてこずりました。

学んだこと、母国に伝えたいこと

- ・時間に気を付ける。
- ・謙虚になり他の人にやさしくふるまう。
- ・自分の技術がまだ十分でないことを自覚し、勉学を続ける。
- ・疲れた時は休憩をとり自分の身体を大切にする。
- ・日本に住みたい人や日本社会と十分意見の交換をしたい人にとって、日本語学習はとても重要である。日本語が堪能になるまで私は勉強を続けたい。

提案事項

私が岡山滞在中に学んだことや体験したことをもとに、次のことを提案します。

- ・研修期間が6カ月程度に延長されるとなお良い。研修員が既婚の場合は、家族帯同の許可を望む。

- ・岡山県には、研修員が研修を通じて得た考えを母国で実施に移せるよう、研修員の帰国後もサポートしてほしい。これにより研修員の中から夢を実現することができる者が出るだろう。
- ・岡山に滞在した研修員それぞれが加入する同窓会組織が、県のサポートにより設立されることを望む。その組織が、新しい研修員にとって情報獲得の土台となるだけでなく、お互い離れ離れになっても連絡を取り合うことができる土台となる。

謝辞

- ・岡山県知事と県の職員の皆様に心より深く感謝申し上げます。
- ・AMD Aのスタッフ、特に、（理事・支援局長の）難波 妙さんと（担当の）田邊 祐果さんに。
- ・特に、（AMD A）菅波博士に。
- ・O P I E Fの皆さん、特に野本さん、和田さんの研修員受入のご尽力に対して。
- ・N P O法人ルワンダの教育を考える会のマリー・ルイーズさんとスタッフの皆さんに。
- ・岡山国際交流センター（O I C）のすべての日本語の先生に。
- ・岡山での研修中に私を快く受け入れてくださったすべての受入機関に。

*****ありがとう ございます*****